

都市とトイレ／第29回全国トイレシンポジウム 開催迫る 「地域・教育・医療・防災」

- 共 催： 日本トイレ協会、工学院大学、新宿区、新宿駅周辺防災対策協議会
 日 時： 2013年11月10日（日）
 受付：9:30 開演：10時 懇親会：18時～
 会 場： 工学院大学 アーバンテックホール【A-0312】
 企業展示： 2013年11月6日（水）～11月10日（日）
 工学院大学 1F アトリウム
 グッドトイレ選奨：
 2013年11月10日（日） 10時～17時
 工学院大学 アーバンテックホール ロビー
 後 援： 国土交通省観光庁、一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本建築家協会、一般社団法人日本医療福祉設備協会、一般社団法人日本医療福祉建築協会、公益社団法人国際観光施設協会、医療福祉環境エビデンス研究会、都市環境デザイン会議、一般社団法人日本福祉のまちづくり学会、NPO給排水設備研究会、一般財団法人自然公園財団、全国管工事業協同組合連合会（順不同）
 協 賛： TOTO株式会社、株式会社LIXIL、一般社団法人日本衛生設備機器工業会、日野興業株式会社、株式会社シミズオクト、湘南ステーションビル株式会社、中日本ハイウェイ・メンテナンス中央株式会社、アメニティ、株式会社アメニティ、日本カルミック株式会社
 参加費： 無料（ただし、概要集1000円）
 事務局： 日本トイレ協会 全国トイレシンポジウム実行委員会

《プログラム》

（敬称略）

- ◆受付
9:30～ 総司会：山本 耕平
- ◆開会
10:00～10:20 趣旨説明 第29回全国トイレシンポジウム実行委員長 坂本 菜子
主催者挨拶 日本トイレ協会 会長 高橋志保彦
工学院大学 副学長 長澤 泰
新宿区区長室危機管理課長 松田 浩一
- ◆シンポジウム【会場：工学院大学（新宿区）アーバンテックホール（A-0312）】
 10:20～11:40 基調講演
 テーマ：「閉じられた小さな空間と日本」
 講師：工学院大学 教授 藤森 照信
- 11:50～12:30 基調報告
 テーマ：「現場からみた看護師発信の病院のトイレ」
 講師：社会福祉法人 三井記念病院 看護部長 金子八重子
- 12:30～12:50 グッドトイレ選奨 応募作品紹介 紹介：浅井佐知子
- 12:50～14:00 休憩 ～グッドトイレ選奨 投票～
- 14:00～15:40 プレゼンテーションセッション

コーディネーター：高橋 志保彦

- ①工学院大学 4年 (津田 翔太郎、中村 洋平)
 - ・トイレの歴史に学び未来を語る
- ②瀬古浩史
 - ・「公共トイレの利用マナーの向上について」
- ③菅野哲男
 - ・男性の復権を目指して -立ちションの跳ね返り防止のアイデア-
- ④星野延幸
 - ・「10年間掃除してない便器をぴかぴかにする方法」
- ⑤高橋 未樹子
 - ・一般のトイレのスペース

15:50~17:20 **パネルディスカッション**

テーマ：「新宿の『トイレ難民』対策について考える」

コーディネーター：工学院大学建築学部 准教授 村上 正浩

パネリスト：新宿区区长室危機管理課長 松田 浩一

環境・防災コンサルタント 秦 好子

日本トイレ協会理事/㈱レンタルのニッケン 取締役 寅 太郎

17:20~17:30 **総括**

日本トイレ協会 副会長 鎌田 元康

◆**企業展示**

会場：工学院大学 1F アトリウム

展示期間：2013年11月6日(水)~11月10日(日) 終日

出展企業：クリニス(株)/日野興業(株)/㈱総合サービス/㈱エービーシー商会/杉田エース(株)/
一般社団法人自然公園財団/東京サラヤ株式会社/ (一社) 日本衛生設備機器工業会
栗本商事(株) miura-ori lab

◆**グッドトイレ選奨**<選奨作品は、懇親会で発表、表彰いたします>

会場：工学院大学 3F アーバンテックホール ロビー

展示期間：2013年11月10日(日) 10:00~17:00

応募作品

- ① 湘南ステーションビル(株) お客様の声をトイレに ~トイレの日アンケート 1994~2011年~
- ② 東日本高速道路(株) 関東支社: トイレ情報誌「あさがお」の発行
- ③ 中日本高速道路(株) 東京支社: 和を迫及したトイレ空間の創造(圏央道厚木PA外回り)
- ④ 中日本高速道路(株) 東京支社: 自然景観を活かしたアーバンなトイレ空間の創造(厚木PA内周り)
- ⑤ 中日本高速道路(株) 名古屋支社 ・中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋: KSS活動
- ⑥ 北海道 日建設計: 最北端の交流拠点を象徴する「マチの灯台」
- ⑦ 入澤 徹氏(個人会員): 着脱トラップ付排水口の簡易サスティナブル再生工法
- ⑧ 白倉正子氏(個人会員): 「トイレの世界」(出演 白倉正子)がDVDになりました。
- ⑨ 長崎市建設局: まちなか公共トイレ整備の取組み(市営松が枝第2駐車場公衆トイレ改善)
- ⑩ 中日本高速道路(株) 東京支社御殿場: トイレ汚れ対策の迅速化に向けた取組み(足柄SA)
- ⑪ 東京地下鉄(株): 有楽町線豊洲駅トイレ
- ⑫ 中日本ハイウェイ・メンテナンス東名(株): トイレ清掃の湿式から乾式への変化と取組み
- ⑬ 浦和ひなどり保育園: 0~1歳児用トイレ
- ⑭ 日建設計: 伊万里有田共立病院のトイレ

◆**懇親会**

会場：工学院大学 7F 学生食堂

日時：2013年11月10日(日) 18:00~19:30

会費：3000円

会場の都合により、定員を70名とさせていただきます。定員になり次第、受付を終了いたしますので、予めご了承ください。なお、お申し込みにつきましては、トイレシンポジウム実行委員会事務局まで、メールにてご連絡をお願いいたします。

トイレシンポジウム実行委員会事務局メール：sympo@toilet-kyoukai.jp / Tel: 070-5370-4164 (森田)

トイレとの関わりは養護学校のトイレ調査から

日本トイレ協会理事 上野 義雪



私がトイレ研究で最初に関わりをもったのは、出身大学の卒論指導の先生が文部省施設部指導課から赴任され、肢体不自由児養護学校の便器算定のための待ち行列調査である。その後、前職の千葉大学建築学科室内計画研究室では、家具・設備機器の人間工学として子供用便器の開発などを手掛けていた。私はこの環境の中で、これまでに小便器、和式・洋式便器、洗面台、水洗金具など衛生設備の人間工学実験を実施し、後にハートビル建築や小・中学校、大学施設におけるトイレ空間や家具・設備機器の実態調査を行ってきた。トイレ以外には、住宅の水回り設備便座形状、ペーパーホルダーの機能性など、一般の人があまり関心を示さないテーマを研究対象としてきた。TV番組「学校では教えてくれないこと」「巨泉のこんなものいらない」の実験協力や講談社科学誌「クオーク」のトイレ特集は、私のトイレ人生における貴重な経験であった。私の仕事は「水商売」とであると自負している。

この他に、人体計測、いす（学校、執務、会議、ソファ、座いす、車いすなど）、シート（鉄道、航空機、乗用車、トラック）、ベッド、筆記具などの人間工学がある。

今回、小林副会長のご推薦で日本トイレ協会の理事を仰せつかった。この協会との出会いは、元TOTOの山崎猛氏のご紹介により、小林理事（当時）、川内理事にお目にかかったことを記憶している。理事としてお役に立つかは不透明であるが、まずは、2回目の参加となる「全国トイレシンポジウム」に参加することからスタートしたいと考えている。

トイレの話は多くの人を笑顔にし、トイレの話は誰にも罪はない。誰でも口にしたくなる不思議な力をもつのがトイレである。以前の授業では、お尻を拭くのは前からか後ろからかを聞くことができた。女子学生であっても笑顔で答えてくれた。今では全く無理である。尿器の構造も排泄のメカニズムも授業の中では話せなくなった。便器に関わる話を授業でできなくなったのは実に寂しい。「トイレの話で我慢」は身体によくない。

協会と学会とは基本的に異なる個所があるが、肩を張らずにしかし、多少は「学」としての顔を時々見せることも必要でないかと勝手に思いを馳せている。（千葉工業大学工学部デザイン科教授）



日本トイレ協会と私とトイレ

日本トイレ協会理事

寅 太郎

今から30年ほど前だったろうか。トイレトピアと言う会合に参加させていただいていました。あの時、たぶん、当時のオーナー社長から、面白い会があるから、覗いてみたらどうか？と、言うことで、You&集 だったかを訪れたのが最初だったろうか。



ビックリしたのは、いろんな方々が集まっていて、トイレについて、熱心に語り合っていた風景でした。当時の私の常識の中では、トイレは、下ネタと一緒に、公の場所での会話としては、タブーの世界でした。

それを、大学の先生から、企業の社長さん方、トイレ掃除をされている方、役所の方、学生、様々な人たちが、自由に「トイレ」について熱く語り合っていたのです。

確かに、トイレは生活の中で、重要な位置付けでしたが、公然と話題にはしにくい気持ちでありました。皆さんの熱い語りに、圧倒されていたのを思い出しました。

それから間もなく、まさかまさかの、弊社で、トイレのレンタルを開始したのです。それも、ちょこちょこっとではなく、一気に、数万棟の仮設トイレを輸入して、日本中で、一気にPR開始。レオナルド熊さんを起用して、ニュースステーションの スポンサーになりTVCMを始めたのです。

陰で動くのではなく、人気番組で一気に日本中でトイレの話題を出来る文化にしよう。との狙いでした。建設現場では、最低限のトイレしか無かったのが、CMのバックアップもあり、今では当たり前の仮設トイレを日本中に普及することが出来ました。

その後、いつしか、人間の居るところ、全ての場所でトイレが使えるように。と、ニッチな所でのトイレ開発が始まり、泡式、節水型水洗、パック式、バイオ式、汚物を粉にしてしまう、乾燥トイレ、等々、トイレの専門家を目指して開発に専念していました。

最近では、弊社以外でトイレの提供を行うことも出来るようになり、しばらく、トイレから遠ざかってしまっていたのですが、このたび、高橋会長のお声掛けで、また、新たなエネルギーをいただけ、災害とトイレや、仮設トイレの環境改善などのテーマに取り組んでみたいと思っています。

皆さんの常識的なことも解っていないでしょうが、素人考えの良さを活かして、少しでもお役立ち出来る様にしたいと思います。よろしくご指導のほど、お願い申し上げます。

(<株>レンタルのニッケン 取締役常務執行役員)

「Kaway Hall」という厠から・・・

櫻木神社 宮司 高梨 富弥

<個人会員 千葉県野田市>

はじめに

私が日本トイレ協会に入会させていただいた経緯は、境内に参拝者トイレを建設したことがきっかけでした。建設に当たっては、設計事務所ゴンドラ代表小林純子先生の設計監修のもとに、専門的な面から多岐にわたりご指導をいただきました。

その結果、かつて神社にはない先進的で高機能な施設に仕上がりに、また、神地風致を損なうことなく、他の施設とも一体感をもった明るく清浄感に満ちた施設になりました。さらにその後においても、全国の神社関係者が視察に訪れるなど、斯界においても注目を集める施設となったことは大変嬉しく思っています。

私は、トイレについて技術面など専門的な知識を持ち得ていませんが、過日のメンテナンス研究会で会員の皆様にお会いさせていただいた折り、親しく話しかけていただいたことなど、同施設を維持管理する立場からも、トイレに対しては同じ思いを共有させていただいていると強く感じたのでした。

この度の入会を契機として、さまざまな問題点、私が知り得なかったトイレの世界のこと、具体的なメンテナンスなど、多くの学びを楽しみに待ちながら、厠の存在意義や本質を整理するためにも 一層考察を重ねていきたいと思っています。



< k a w a y a ホール内の川屋神社 >

1. Kaway 享楽

私たちの生活世界の向こう側に、想像される世界、あるいは想像した世界、厠（トイレ）は、そんな世界への入り口にあたる境界領域の一つといわれている。

かつて、古人は、そこから見えた世界を異界と呼び、夜や死後の世界を時間軸に、海や川や山を、さらに天上や地下などの世界を空間軸に置いて向こう側をイメージしたのである。

多様な風習や習俗から成り立つ日本の生活文化は、時として怪異にも享楽にも傾く、厠はその一端を覗き見る恰好の場所とも捉えられていたようである。

何故に、厠がこんなにも、あたかももののけにも、あたかも福德の神にも支配されたかのような世界観に彩られたのだろうか。

排泄とは、身体と魂の更新であるとして、古人の心の深層において不可思議さを映し出していたからかも知れない。

櫻木神社の kawaya ホールは、参拝者をもてなすトイレである。一方、地域に暮らす人々にも提供される公共性をもったトイレでもある。時期を選ばず、一年を通して不特定多数の人々が毎日利用するのである。私は、このトイレを遊び心にも「kawaya ホール」と名付けたと言ったことがあるが、ほんとうのところ、かなり熟慮を重ねた結果なのである。

おおよそカワヤは「厠」であるが、古くは「川屋」と考証されている。他にも「河屋」「圀」「側屋」などなど、数え切れないほどの名称をもっている。

ところで、神様の名前にも、一人の神様に幾つもの名前がついていることがあるが、それは神が時によって異なる働きをするので、それぞれにその意味において名が付くのである。トイレにも種々の働きが内在するのだろうか。

「toilet」という言葉は世界共通に普及した。「kawaya」という言葉の普及をも目論みつつ（因みに、ボルネオでも川の上に設けたトイレをカワヤというらしい）、私はここでの働きに対しての名称として名付けようと思ったのである。

つまり、櫻木神社のトイレは川屋なのである（実際には川の上にはないが）。川は絶え間ない水の流れを意味し、その水の浄化力の神聖さは神社がもつ普遍的価値である。その価値は“祓え”という概念にあって、それは「モノ」の排除だけではなく、「コト」の獲得でもある。そのコトとは生命の更新である。私はそう感じられるような場所にしたいと思っているのである。

また、便所というような直接的な表現は避け、コントロールできないこの場所を、忌み言葉や隠語の如く用いることで、なんとも享楽の境地にいたる世界を創り出すような仕掛けになるのではないかとも思うのである。

さらに、トイレに行くことを「高野山に行く」という一例がある。そこが髪を落とした人々が住むから、髪を紙にかけ、紙を落としにいくといった洒落も生まれたのである。ここでも本質が削がれ、情緒や洒脱さによって反対側に異なった仕組まれたかのような世界が見え隠れしてくるのを感じるのである。故に大いなる想像力が刺激され、生活の歓喜も苦難も同調して快く蘇ってくるのはなぜなのだろうか。

そんなことで、制御困難な厠については、本気を貫く遊び心のようなものが必要なのかも知れない。多くの人に伝わっているようで伝わっていないこの場所を、どのように伝えていくべきなのか、迷いを抱えながら・・・ またまた、この場所が、怪異か享楽かに傾くとするならば、私は、名称から享楽に傾いて楽しもうと思ったのである。

2. 美しい生活の連鎖を求めて

日本人は、日常生活において、常に美しい生活の連鎖を求めて努力しつづけて来たような気がするのである。その成果と繁栄は、今日までの文化様式を窺って知ることで証明されているようにも思われる。



<砂雪隠 堀内家>

例えば、茶道では雪隠拝見などというものがある。客が亭主のもてなしを路地のさま、庭のさま、雪隠のさまにまで感じ取ることで、それが最大級の礼を尽くしたことになるというのである。これは生活文化の極みでもあり、どのような国にトイレ拝見などという文化が真面目に存在するだろうか。

今日、現代人にとって、排泄は忘れられた単なる生活痕であるような気がするのである。一方、食事はといえば、ますます飽食が進みグルメ化し、忘れられない生活癖になってしまっているようにも思える。果たして、この関係を麗しい生活といえるかどうか疑問である。

排泄という、天地に従う尊い生命の循環行動が、汚い臭いだけの扱いで常に排除される運命でよいはずがないのである。豊かな生活悦に入る境地に趣かせてくれる手だてはないものだろうか。

ところで、糞尿の処理方法が完備した水洗様式に依存する現代、人口増加や産業改革によって上代の川屋様式や農耕時代の貯糞様式は皆無になった。衛生面においては当然称賛されるべきものであるが、最終物が目に見えない彼方に排出されるこのシステムに、少々の問題を抱えてしまうのは私だけなのであろうか。

例えば、古代ローマの滅亡は、都市の糞尿を川に流したためであるというのである。（李家正文『厠風土記』）食物は植民地から調達し、自国の田畑を顧みず耕作もしなかった。糞尿は再利用されることなく都市に溢れた。糞尿という最終物の取り扱い方が帝国の存亡を分けたというのであるから事は重大である。最終物をただどこかへ排出するというだけの視点では盲点にしかないということなのであろうか。しかしこれも遠い昔の話しではあるが、現代にも当てはめてみる必要もあるような気がするのである。

便利さや清潔さに加え、忘れられた生活痕の廃棄システムに傾倒しがちな現代トイレ事情、処理後の利用が、燃料や肥料、餌などと、何かに変わる、何かに役立つ、何かのためにという文化の進歩が一般的には見えてこないのである。私の勉強不足かもしれないが、そこが広く人々に知らされ、伝わり、理解されていくなれば、麗しい生活の連鎖も持続可能なものになっていくものと思うのである。一層優れた、持続可能なトイレ利用システムの構築を待ちたいと心から願っている。

3. 生活文化の拠点としての kaway a ホール



< k a w a y a ホール >

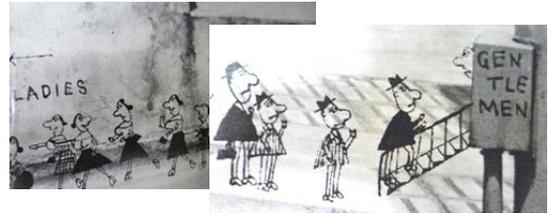
ところで、神社のさまざまな施設は生活文化の拠点として、また地域のよりどころとしての役割を担ってきた。例えば、社殿では神との交歓が図られ、参集殿では地域の人々が交流し宗教的生活文化を互いに感受するのである。神社における生活文化は、神と人との関係のみならず、人と人、人と自然との関係においても成立するものであると考える。全ては滞ることのない、循環的に生きている人間の何ごとにも深心なる対応の中で、神と自然に依存してきた古来の精神文化が、祝福の生活文化としてここに浮かび上がってくるからなのであろう。

kaway a ホールは、そんな楽地に存在する。そこには神が祀られ訪れる人々を迎えているのである。

単に排泄の場という位置づけではない、いやそう感じてもらいたいと私は願っている。それは日本人の基層文化ともいえるものがそこにあるかも知れないからである。どんな対象に対しても何ごとかを捉え、考え、感じること、そんな心の働きが培われるような場所が kawayo ホールであると信じたのである。

4. おわりに

ある時、知人に「お寺のトイレは僧侶が修行するからきれいだが、神社のトイレは、そうじゃないね、紳士淑女のためのトイレを考えてみては・・・」といわれたことがあり、ショックだった。



確かに、他の施設と比べれば、特に重要な施設でもなく、あえて気遣って扱うこともなく、ましてやそこで修行などという考えもなく、さらに紳士淑女のためのトイレ？ などとも思いつかなかったことである。しかし、神社が生活文化（天地に添う人間の自然的知）の拠点であり、その拠点から次代に向けて麗しい生活文化を創造し発信していくならば、今日の憂鬱を明日の歓喜に変えていくような試みが必要であるような気がするのである。

兎にも角にも、トイレに関しては知れば知るほど奥が深く、私などの浅学では答えを見出せないのである。足を踏み入れてしまったトイレの世界、なんともしがたい世界、そんなことを思うこの頃である。

明日こそは今日よりも、より良いトイレ文化が創造されていることを願って・・・

男子禁制 長崎ウーマンズ・ウォークラリー

「みんなにやさしいトイレ会議」実行委員長 竹中 晴美

<個人会員 長崎県長崎市>

●2013年11月3日開催、今年のポスター。



私には、自分の生き方を変えた2つの出会いがあります。ひとつは「大浦お慶さん」動乱の幕末、男性社会の中で異国の人たちとビジネス、堂々と生き抜いた長崎出身の女傑。日本初のお茶の輸出で成功した、まさにキャリアウーマンの先駆けのような女性。彼女に出会い（もちろん本の中）その生き方に触発され、私も何かやろう、何かしなければ・・・。その思いが、長崎で活躍した女性たちの足跡を訪ね歩く「長崎ウーマンズ・ウォークラリー」です。今年でもう27年！自分でも、よく続けられたと・・・。ただ長崎には何度も出来る歴史的な人物が存在する、毎回、様々なコースが作れる、という歴史的な財産があるのです。職業柄、最初に考えたのはインパクトがあること。「男子禁制 うふふ」は、自作品、カラーもピンクで統一。当初、ピンクのB全のポスターは、それ

だけでもインパクト大、「男子禁制・・・」の言葉は、様々な意味で波紋を呼びました。それも宣伝効果ですよ。 “女性だけのまちあるき” コンセプトも女性たちに支持され、今では長崎の秋のイベントのひとつに定着しました。ボランティア活動ですが、黙々とずっと支えてくれているスタッフのお陰です。男性の方から「男子もたまには参加させてよ・・・」と言われたことが、きっかけで、何年かに一度「男子解禁」に。今年は、久々の「男子解禁！」なので、たくさんの参加者して下さるのが楽しみです。

● トイレ内で読める？ B5サイズの小さな本

もうひとつの出会いは、「トイレ」。長崎ウーマンズ・ウォークラリーを企画した時に、真っ先に思ったことは「まち歩きにトイレは必須！」27年前当時の公衆トイレは、汲み取り式も多く、4K（暗い、恐い、汚い、臭い）は当たり前。その実態を当時のスタッフで調査、結果を長崎市に提出。これが大きな問題意識を投げかけ新聞、議会でも取り上げられました。この期を境に長崎市の公衆トイレ改装に踏み切ったことは確か。そういう意味で、私たち女性の提言は長崎のトイレ事情に役立ったと思います。

しかし立派になったトイレに対し、女性たちの間では「やっぱり使い勝手がわるいよね、相変わらず臭いし・・・」そんな気持ちが漂っていました。文句いうだけでは解ってもらえない。それで生まれたのがトイレ本「まあだだよ」長崎のトイレ文化は、まあだだよという意味。長崎の公衆トイレの実態調査を点数付きで調査、女性たちの理想とするトイレ提案などをまとめた本を出版。

実は、この本が小林純子先生と出会うきっかけ。長崎駅アミュプラザのトイレ設計を担当された時に「地元で誰かトイレに関心がある人いないかしら？」小さな本のおかげで私が推薦してもらったわけ。小林先生とは、もう10年以上、おつきあいさせて頂いています。小林さんは、校長先生みたいな存在。私は、その校長室でいつもグズグズしている生意気な生徒。最初の頃「あなたのやりたいことがわからないわ」自分なりに勉強したと思い込んでいた頃「みんながあなたと同じ目線ではないのよ、ちゃんと下に降りて来ないと」「ひとりだけ熱くなりすぎちゃダメ」「トイレは、作ってからが大事なのよ」小林先生のおかげで、何がいちばん大切かを教えて頂いたと思います。



● 2011年「みんなにやさしいトイレ会議」実行委員会設立



3年前、行政と一緒にあってトイレ問題を考える市民活動グループ「みんなにやさしいトイレ会議」を立ち上げました。2011年、小林純子先生を講師に第1回「トイレシンポジウム」開催。2012年第2回は、小林さんのご厚意で平田会長の基調講演。トイレ協会の会長・副会長の話が長崎で聞けるなんて、本当にトイレの神様はいるんだなって。今年は、メンテナンスの基本の「き」と、便育について「村上八千世さん」が講師。年に一度のシンポジウムは、専門家の方から学べるだけではなく、私たちの活動状況を発表する大事な機会でもあります。

● 2013年村上八千世さんのウンコダスマン体操を大人も子供も楽しく！

トイレを使う側と作る側が現状を伝え話し合う。3年間の活動の実績として、使い勝手の機能（洗面所横のフック、全身鏡、多目的トイレ内の荷物置きなど）が、少しずつ基本に追加されています。やってきて良かったなど実感できるようになりました。



<村上 八千世さん>



● バリアフリートイレの実態調査レポート提出

また長崎県バリアフリー推進協議会から多目的トイレ調査の依頼を受けて、長崎市市内約60か所を、ひとりが5か所以上を担当、休日返上で調査。多目的トイレへ入る前に、歩道や入り口付近に思いがけないバリアが潜んでいたこと、内部も車椅子の動線では動けないようなスペースであり、手洗いに手が届かない不便さなど改めて、厳しい点数を付けざるを得ない現状で提出、でもこれが行政に届くということが活動の証です。

● まちかどトイレ（長崎市内レストラン）第1号の設置



今年6月には頂いた活動資金で念願の「まちかどトイレ第1号」設置。トイレだけでもどうぞの「まちかどトイレ」は、確かに維持・管理など難しい問題が、たくさんあります。協力してくれるお店の方と何度も話し合い、お互いにメリットがあるような「まちかどトイレ」を目標に、メンバーで見守り続けています。

● みんなで大事に見守るための「ちょっと出してね貯金箱」

トイレは、長くやっても、先がなかなか見えてこないし、簡単には実績もつくれません。ただ本格的に組織を作って活動をしてからは、みんなの力が出せるという実感があります。トイレは本当に奥が深く、どこまで行っても追いつかない。でもトイレが大好きなので、やればやるほど深みにはまって、きっとトイレのドアを閉めて出ていくことは、できないのではないかなあと思っています。



現在、恒例の第3回「トイレ川柳」を大募集中！

●フェイスブックに「みんなにやさしいトイレ会議」ページを作成。活動状況を随時報告しています。

<http://chotto-good.jp/toilet/index.html>



紙オムツは人生を積極的に生きるツールです！

(株) オフィス・イワマ 代表取締役 岩間定子

<北海道・帯広市 個人会員>

こんにちは 日本トイレ協会の皆様、いつもご案内を頂き、いつかは参加したいと思っていました。私は帯広市で福祉用品、医療機器などを卸販売の仕事をしています。歩行器になる椅子も開発し、販売しています。

そのなかでも排泄に関するご相談が一番多く、紙オムツ、ポータブルトイレ、トイレ改修など、いろいろな勉強をさせて頂きながらの毎日です。

人々には食べて寝て、排泄と云う世界共通な、例えば宇宙飛行士が宇宙に行っても省略することが出来ない行動があります。そのなかで排泄に関しては、生活のなかの食事や睡眠と違って自分で時間をコントロールすることは出来ません。省くことも出来ません。その大切な役割にトイレと紙オムツがあります。

紙オムツに関しては、ユニチャームの代理店として、選び方、利用の仕方など最高の効果を実感して頂くためのセミナーを病院、施設、在宅向けなどで開かせて頂いています。

赤ちゃんにとって紙オムツは、微笑ましい印象ですが、私たち大人にとっては機能が衰えた時に必要になる「紙おむつ」と云う名称はマイナスイメージを持たれる方が一般的です。しかし晩年の人生を前向きに積極的に生きるための必需品であるという理念を学ぶ勉強会も実施しております。

「紙おむつ」は道具です！ 下着です！ 人生を積極的に生きるツールです！

そんな毎日の仕事のなかで日本トイレ協会様を知り入会させて頂きました。お客様に少しでも新しい情報をお伝えしたい強い気持ちがありました。

私事で恐縮ですが、「株式会社オフィス・イワマ」も今年で20周年を迎えることが出来ました。その記念すべき年に協会ニュースに原稿を書く機会を得たことは、とても光栄に嬉しく思っています。今年こそ全国トイレシンポジウムに参加出来るよう日程を調整しています。

これからも排泄に関する紙オムツの仕事を楽しく続けて行きたいと考えています。

未だ沢山お伝えしたいことがあります。北海道帯広で元気で頑張っていることを皆様にお伝えいたします。最後に北海道で全国トイレシンポジウムを開催出来ることを願っております。

トイレを考えることで感性を磨く教育を

神戸医療福祉大学 荒木 実代

<兵庫県・宍粟市 個人会員>

■ トイレと私の繋がり

現在は、神戸医療福祉大学で介護福祉士の養成に携わっております。介護福祉士の養成では1850時間以上のカリキュラムが生まれ、3つの領域から専門的な知識や技術を修得していきます。

3つの領域とは、

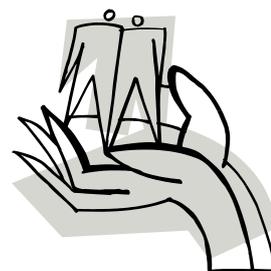
- ①その人らしい生活を支援するために専門的技術・知識を学ぶ「介護」
- ②その生活支援をするための教養や倫理を学ぶ「人間と社会」
- ③介護の根拠や多職種と協働していく必要性を学ぶ「こころとからだのしくみ」です。

このうち、私は「介護」の領域で「食事や排泄の介護」などを教えています。排泄介護の授業では、尿器・ポータブルトイレ・ベッド上でのおむつ交換などの生活支援の方法はもちろん、おむつ中に排尿をする実体験を通して排泄が尊厳と深く関わっていることを伝えています。そのような関係からでしょうか。昨年、新聞で平田純一名誉会長の「トイレ学」の記事を拝見し、そのような学問があることや便器の研究に興味を抱き入会させていただいた次第です。

■排泄介護から感性を磨く教育を

現職に就く以前は、私は特別養護老人ホームで勤務をしていました。その中で、排泄環境がその人に合ったものになると笑顔で穏やかな時間を過ごされ、排泄が尊厳と深く関わっていることを多くの高齢者の方に教えていただきました。排泄介護は、その人に合ったタイミングであるか、トイレそのものがしやすい環境であるかなど、人には言いにくいものであるため、察する力が必要な、まさに「感性」を必要とする介護だと思いました。

現在、本学の学生たちは介護福祉養成過程の中で、特別養護老人ホームなどに約2ヶ月間の実習に行かせていただいています。私が勤務していた施設のトイレの入口はカーテンでしたが、学生たちがお世話になっている実習先でもそのような施設が多くあります。入口がカーテンであることで誰もが入りやすいのは事実です。しかし、排便のメカニズムを考えると、今ここで排便をするかしないかは意識的にコントロールできることから、自分自身に置き換えた時に果たしてこの環境でトイレができるかについて想いをめぐらせて欲しいと思うところです。学生には素直に学ぶ力がありませんが、その半面、「施設はこういうところなんだ」と素直に受け入れる面もあります。感性を研ぎ澄ませて当たり前の暮らしができるように、思考し実践できる学生を育む感性を磨く教育が必要だと感じています。



■トイレ研究への想い

高度経済成長期を支えてこられた団塊の世代が高齢期を迎えています。また、現在は私の子ども時代にあった汲み取り式便所と異なり、部屋のようにくつろげるトイレ環境に進化しています。トイレに求める機能や価値観も時代と共に変化を遂げています。最近の高齢者施設では、先に述べた施設もありますが入口にドアが設置されていたり、排泄の音を消したり、前方アームレスト・ウォシュレットなど、排泄しやすい環境が整っています。安心して排便を出せるかどうかは、このハード面に大きく関わっていると思われませんが、そのハード面を作る前提にトイレに対する価値観、文化などが影響していると思います。

これからの時代、トイレに求められる価値観や文化などソフト面を解き明かしていき、排泄しやすい環境をについて考えてみたいと思っております。

どうぞご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

世界のトイレ快道をゆく

10年ぶりの台湾

副会長 坂本菜子

台湾衛浴文化協會 TTA とのお付き合いは1999年に当時の会長 吳明修氏(建築家)のお取り計らいがあり、日本におけるトイレの新しい傾向について台湾で度々講演をさせていただきました。その後台湾のトイレを清潔にするにはどうすればよいかとのご相談があり、私は日本トイレ協会メンテナンス研究会のメンバー10人と共に2001年6月に台北におもむき、3日間にわたり市の職員及び清掃従事者500人の方々にトイレの清掃作業の実習と講義を行いました。その際、馬英九市長(現総統)を訪問してこの分野の課題を直接お伝えし、新聞も大きく取り上げたため台湾社会にトイレのメンテナンスの大切さを大いに伝えることができました。その後も3年かけてこうした交流が続きました。同時に台湾のTTAも発展を続け、今年5月に両協会会員相互で名誉会員を交わすまで親密になった事は J T A前号に掲載してあります。

さて今回は10年ぶりの台湾訪問でした。まずは発展する台北市の「台北101」を訪れることから始まりました。



献策救公厕 馬英九市長、市南段日本廁所協會理事長十位講師專家來台訪視教學、市日專家團一行八人來訪市南段市長馬英九會面、運送供下不少建議。記者彭朝鳳/攝影

清掃廁所 日本專家獻策

專業性工具一應俱全 參加講習者大開眼界

当時 馬英九台北市長[現中華民國総統]をメンテナンス研究会のメンバー10名が訪問した

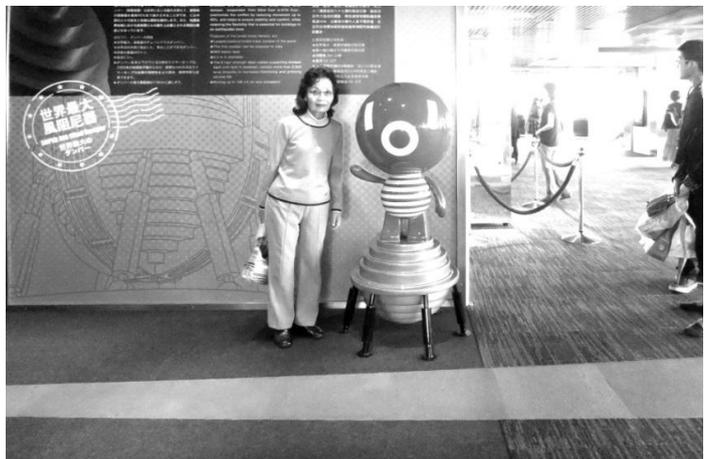
2001年6月15日付 北市新聞

回の視察ルート 台北～宜蘭～金門～高雄



首都にひときわ高くそびえる台北101

市の全貌を360度見渡せる台北101の89階展望フロアー



台北101の展望台

台北101は2004年時点では世界で最も高い高層ビル（508m）でした。B1～6階までがショッピングモール、中層階はハイテクオフィスや国際会議センターが入り、最高層部は展望台とレストラン、スーベニールなどがあります。

ショッピングモールには世界の有名ブランドの洋服やバッグ、化粧品の品々が並び、ディスプレイも銀座や原宿を歩いているような錯覚を覚えるまでに今や世界と肩を並べても遜色のないレベルを感じました。

89階の展望フロアは四方全面ガラスで大勢が台北市全体を360度眺望できます。この展望フロアにあるトイレはさすが近代化された大判タイル、洋便器、大巻ペーパーホルダーと行き届いていました。

しかしこのブースに不釣り合いな大きなサニタリーボックスには理由がありそうです。台湾では過去長らく配水管が細くて便器内に紙を流さないのが普通だったようで、用済みのペーパーを大きなゴミ箱に捨てる習慣が未だ一部にあるかららしいのです。ブース内に貼られたサインがふるっっていますね。むしろ微笑ましくさえ感じました。国際的な都市、そして観光地には使い方のサインはますます必要かもしれません。



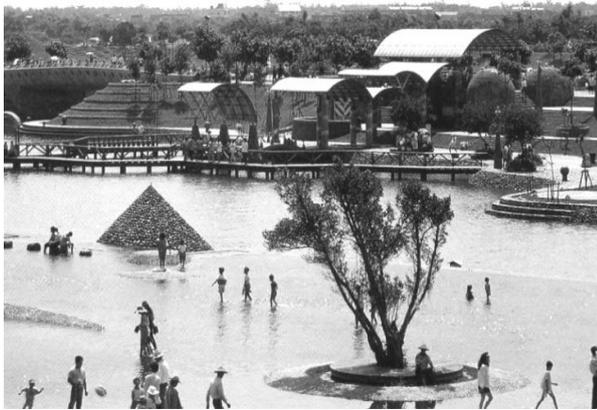
台北松山国際空港の待合室

空港の待合ゲートの背面壁をライティングウィンドウで飾り、両側の男女トイレ導入通路とデザインを一体空間化してトイレらしくない爽やかな印象を与えています。「陽名山の春のカラーの花」と題したガラスのレリーフで台湾の工芸作家呉寛亮チームの作品だそうです。



宜蘭（イーラン）県 冬山河親水公園

冬山河は台湾の東側の宜蘭県から太平洋に注ぎ、その河口近くには水と緑をテーマにしたスポーツやレジャーなどを楽しむ親水公園が整備され、周辺にとどまらず遠くからも多数の人々が訪れています。



公園全域を精力的に設計監理した象設計集団（台湾事務所）の坂元卯氏に案内をしてもらいました。

この公園にはトイレが5か所あります。その一つはまず柔らかなトップライトが中心の植栽に光を落とす円形空間を設け、そこから男女トイレへ分かれて入るようになっています。そして中は男子トイレも女子トイレも壁の至る所にプランターがあり爽やかな緑が生き生きと色づいていました。1994年に完成、設計／象設計集団＋中冶環境造形顧問です。



宜蘭県 礁溪湯圍溝(シャオシー・タンウェゴ)公園の足湯温泉

台湾の人は温泉好きだといつも思うのですが、今回、礁溪郷の温泉街で足湯を楽しむ人たちに出会いました。街を訪れた人々は、帰りの観光バスに乗る前に皆賑やかにお喋りをしながら足湯をしています。さぞ旅の疲れも取れることでしょう。これも公園全体をあわせて象設計集団の設計です。

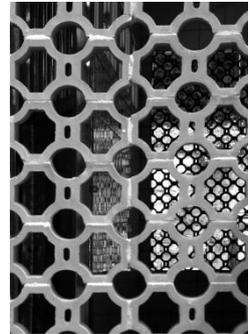


金門島

金門島は台湾海峡を遥か200km隔てた大陸沿いの小島です。二次大戦直後暫くして中華民国(台湾)軍の防衛拠点となり一般の出入りは厳しく制限されました。その後1992年に政策が緩和されて自由に観光客が訪れるようになり、今では2km先の大陸の厦門(アモイ)と定期船が往復するまでになっています。動植物の生態、人文史蹟、戦役記念等の地域は国立公園に指定されています。

金門島 珠山の南福建風伝統集落を保存

荒れかけた古民家集落を保存活性化するため、国立公園が地元家主と交渉して修繕費を負担し、村民のなかには委託して民宿などを経営して生活をしている人もいます。



集落の廟の脇に新しく建てた公共トイレがありました。過去台湾をたびたび訪れた際も小さな丸穴を細かく連続させた陶器ブロックのスクリーンをよく見かけました。以前からこの陶器スクリーンに出会うとこれはトイレだ！とすぐ近寄ろうとするのが私の癖です。風を屋内に誘い込み屋内の澱んだ空気を外へと自然換気させるこの方法は匂いに敏感なトイレには打ってつけです。台湾は外の植物がよく育つので、屋内からは赤い陶器模様と外の木々の緑が重なり合い色鮮やかなとても美しい光景を見ることができます。



金門島 珠山の民宿

現在、珠山集落に住みついて民家改修の設計などもしている知人のデザイナー李秀秀さんの紹介で一晩この村の民宿に泊まりました。伝統的な中国民家建築のひとつ三合院です。三合院は門棟と三方の建屋に囲まれた中庭によって成り立っています。以前、別の観光地などで文化財として見学したことはありますが泊まるのは初めてです。それにしても現代の観光客が泊まるわけですから何かから何まで昔のままというわけには行かないのでしょう、建物の内観外観の様式は保善しつつ、バス・トイレや簡易なエアコン、照明や一部の家具ベッドなどは現代的にリニューアルしてあります。



中庭のさらに奥にある居室への通路



バス・トイレのインテリアは天井を張らず高い小屋裏をそのまま見せています。色彩はモノクロ写真では分かりませんがブルーや濃茶そして派手な赤い枠線で塗装してあります。水がかかる下部の壁と床はレンガ色のタイルや花崗岩です。バスタブ、シャワーブース、便器、洗面台などが全て洋風のデザインなのに出入口の扉の鍵は、ラッチ式ではなく昔の大きな木の門(かんぬき)にしてあるところは演出としてとても面白いと思いました。



金門島 昔の農村共同トイレ

前述のデザイナー李さんが昔の農村で使っていた共同トイレが保存してあると言って案内してくれました。細い通路両側に屋根付きのブースが1穴ずつ、その先は腰壁だけの青空で20穴ほどが連続しています。昔は人糞を畑の肥料にしたのでピットに溜めた汚物を外側から汲み出せる構造になっています。しかも農民各戸の持ち分をはっきりさせるためピットは仕切られています。



掲示板に【この小西門のトイレは県の文化財に指定しました。皆さんで大切にしてください。今後このトイレは使わないで下さい。ごみも捨てないで下さい。違反者は法律によって罰せられます／金門県文化局】と書いてありました。



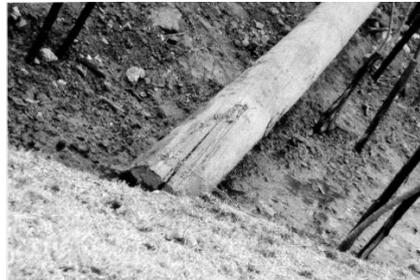
金門島 翟山(ディーシャン)抗道の公園のトイレ

これは軍事基地内のトイレではありません。ここはかつての緊張状態のころは巨大地下水壕基地でしたが25年ほど前に廃止となり今は観光客に公開するほか、そこでは地下ミュージックイベントなども開かれるそうです。地上は緑豊かな公園で市民の散策の場となっています。

この公園ではおどろいたことにゲート、イベントステージ、売店、公衆電話、そしてなんと公共トイレまで建物の壁面は全て迷彩色の柄で覆われていることです。その意匠は戦役記念地の意味も込めているのでしょうがいったい誰が発案したのでしょうか。服飾ファッションのジャンルではヤングにもシニアにも当たり前の現代模様ではありますが、まさか公園のトイレの建物までとは。いっその内部の壁やパーティションもそうしたらいったいどうなることでしょうか？

高雄市 中部濕地公園 荒廃した貯木池跡を公園に！ 鳥たちも帰ってきた。

高雄市は台湾南部最大の都市です。市を流れる愛河の脇に以前は大きな貯木池がありました。時代をへてこの場所の用途は変容し最後は不要な物が投棄されてしまい川は汚れていました。



市はここを環境改善する方針を打ち出し、このプロジェクトのコンペの最終案は中冶環境造形顧問〔代表 郭中端さん〕が獲得して実施にうつされました。400m四方にわたる公園を単なる庭園ではなく台湾の動植物の生態系をコンセプトにして構成しています。そこは廃棄物をその場に埋めながら、なだらかな丘に盛りあげて樹木を植え新たに水路を流し湿原も再現、回遊路や橋で観察する

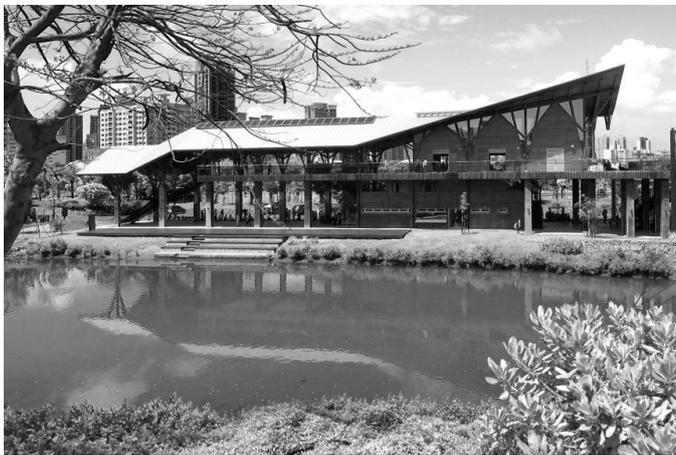


ようになっています。2011年に完成しました。国際的な環境関連の賞も受賞しているそうです。

開園から2年たって樹木や草花も順調に育ち、いろいろな鳥たちも帰ってきてい



公園にはビジターセンターがあり、2階のレクチャー展示ホールでは園のコンセプトである自然生態系についての解説をしています。そのほか校外授業などにも活用するらしく、たまたまこの



日は小学生の子供たちが先生につれられてわいわい楽しそうに見学していました。



1階の外の手洗い場で子供が手を洗っていましたが、ちょうどその裏側がトイレ内の洗面カウンターコーナーになっていて、壁の内外に水回りがうまくまとめてありました。



トイレは床、壁、ブースとも全て真っ白で以前台湾で見た記憶にはないとてもモダンなインテリアでした。だれでも使えるトイレブース内に手すりつき男性用小便器が併設してあります。日本ではあまり見ない組み合わせなので不思議に思い設計者に直説質問したところ、設計時点の調査で体の弱い男性は座る便器では脇にしかバーがなく、立って小便ができないという意見を反映させたとのこと。我が国の場合男子トイレの隅にあるのが、常識ですがこの事はそれぞれの国なりの行動心理についてもっと深く研究する価値がありそうです。それにしても便器脇の大きなサンタリーボックス(ゴミ箱)は最初に見た台北101のトイレと同じく台湾全国共通の在り方ようです。

あらためて台湾を廻ってみて

今回の旅は 台北、宜蘭、金門、高雄とほんの短い時間でした。しかし今台湾のどこへ行っても10年前に比べてトイレに関する認識はいっそう深まりつつあるのを感じました。そしてそこには市民の近代化の中にも生活習慣の違いが微妙に反映されているのが見て取れます。私も専門の立場からうっかりすると先進的トイレのスタンダードを念頭に良し悪しを言いがちですが、これからはお国柄や人々の生活心理にももっと目を凝らしてトイレ快道の旅を続けたいと思います。

